

都立立川短大 石毛フミ子
 昭和女大文家政 浮須 婦紗
 ○鈴木キミ子

1. 最近は日本人の体位がいちじるしく向上したと思われるので、被服製作指導上の参考寸法を得る目的を以て幼児から成人にいたるまでの身体計測を実施した。

2. 計測期は昭和42年5月～10月で、都内日体幼稚園（男女）・世田谷高等学校（男）・昭和女子大学付属高等学校（女）・東京農業大学（男）・昭和女子大学（女）・東京重機工業株式会社（男）・日本橋三越（女）において男子407・女子525計932名を計測した。実測部位は、幼児21項目、高校・大学・成人ともに男子24・女子25項目について、マルチン法により実測し、年令別平均値・標準偏差を求めた。これを昭和41年7月～9月に計測した都内における小・中学生の身体計測と合わせて、4歳から29歳にいたるまでの各項目における平均増加曲線と、昭和29年7月～9月に石毛以下5名が計測した同地区・同対象年令1,615名の結果と比較した。

3. 長径項目においては13・14歳までは直線状に増加しているのに対し、16・17歳以上は、なだらかな上昇曲線を示している。胸囲・大腿最大囲をのぞいて周径項目においても同様な曲線となっている。本調査は都市の一部の計測値で都会の同年令を代表するとはいえないが一応のめやすと考え、年令別平均増加曲線から、服の幅ゆき・たけにおける縫いしろ、縫製の問題を検討する資料としたい。